

令和 7 年（2025 年）に向けた（具体的）対応方針の決定について

<医療機関 2025 プラン（その他の医療機関）>

令和元年 9 月 19 日

目 次

・ 徳山リハビリテーション病院	1
・ 周南リハビリテーション病院	4
・ 徳山病院	7
・ 下松中央病院	10
・ 鼓ヶ浦こども医療福祉センター	13
・ 湯野温泉病院	16
・ 鹿野博愛病院	20
・ 周南高原病院	23
・ 周南病院	26
・ 下松病院	29

徳山リハビリテーション病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団 生和会 徳山リハビリテーション病院
開設主体	医療法人社団 生和会
所在地	周南市大字徳山 626 番地
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	120 床 療養 回復期 120 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	120 床 療養 回復期 120 床
診療科目	内科、リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	210 名 6 名 54 名 135 名 15 名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料

回復期リハビリテーション病棟入院料 1 看護配置13対1 看護補助配置30対1

(30年度定例報告より)

平均在院日数 120日、在宅復帰率 88%、一日平均入院患者数 119名

② 自施設の課題

- ・将来的に地域の医療需要の減少が見込まれること
- ・二次医療圏の中で、急性期医療の受け皿となる回復機能を有する医療機関が増大し、機能の重複化が懸念される
- ・急性期病院とのスムーズな連携（例：入院中の急変等）

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・現体制を維持して、今後も地域における回復期機能の一翼を担う
- ・市町村との連携強化により、地域住民との連携を図ると同時に二次医療圏の地域基幹病院はもとより、医院・クリニック等との連携強化を図る。

② 今後持つべき病床機能

- ・今後の医療需要の推移を注視しながら、その中で最適で適正な病床機能について検討する

③ その他見直すべき点

- ・特にありません

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	120		120
慢性期			
休棟等			
(合計)	120		120
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

特にありません

(別添)

周南リハビリテーション病院 医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人社団生和会 周南リハビリテーション病院
開設主体	医療法人社団生和会
所在地	周南市大字湯野 4278 番地 1
許可病床数 (病床の種類) (病床機能別)	210 床 一般病床 82 床 療養病床 128 床 回復期 44 床 慢性期 166 床
稼働病床数 (病床の種類) (病床機能別)	210 床 一般病床 82 床 療養病床 128 床 回復期 44 床 慢性期 166 床
診療科目	内科 神経内科 整形外科 呼吸器科 皮膚科 リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	275名 8名 99名 128名 40名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1 44床 病床稼働率96% 平均在院日数80日

障害者病棟入院基本料 10:1 82床 病床稼働率100%

療養病棟入院基本料 1 20:1 84床 病床稼働率100%

訪問リハビリテーション 契約者数95名

② 自施設の課題

慢性期病床については、ほぼ満床で推移しているが、回復期については季節要因等により稼働状況に変動がある。回復期リハ病棟対象患者は減少も、病院全体ではリハビリ実施患者は増加している。

回復期病床数不足が指摘されているが、患者確保の上で、提供するリハビリの質や量の評価以上に、競合する他地域との比較で立地条件が大きく影響している。また、リハビリについては、一律的に査定を受けている。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域におけるリハビリを中心とした回復期機能の一翼を担う。

市町村との連携強化により、地域住民への介護予防活動の積極展開により、地域との連携を図っていく。

また、地域基幹病院との連携はもとより、クリニック等との連携も強化していく。

③ 今後持つべき病床機能

現状の回復期と慢性期のバランスで行っていく。

④ その他見直すべき点

各種職員確保策、職員教育等にも重点を置く。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	44		44
慢性期	166		166
休棟等			
(合計)	210		210
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
H31年度	<p>リハビリ患者の増加や病室の個室化など、多様なリハビリテーション機能に対応した医療を提供するため、回復期リハビリテーション病棟入院料1の44病床のうちの4病床を慢性期病棟へ移転の上、障害者施設等10:1入院基本料を算定する。</p> <p>理由；直近1年間の稼働率 病床稼働率：回復期（対象外除）90.95% 障害者移設等 100%</p>	<p>当該病床は、リハビリテーションを中心とした医療を提供するため、リハビリテーション保険点数平均307点は、移転後も回復期基準点175点を上回る見込みであり、引き続き回復期機能を有する。</p> <p>なお、稼働率等の推移により、2025年までに回復期リハビリテーション病棟の病床へ戻すことも検討する。</p>

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

該当なし

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

該当なし

【4. その他】(自由記載)

特になし

徳山病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人周友会 徳山病院
開設主体	医療法人周友会
所在地	山口県周南市新宿通1丁目16番地
許可病床数	78床
（病床の種別）	一般病棟 42床 療養病棟 36床
（病床機能別）	回復期 68床 慢性期 10床
稼働病床数	78床
（病床の種別）	一般病棟 42床 療養病棟 36床
（病床機能別）	回復期 68床 慢性期 10床
診療科目	内科 消化器科 循環器科 リハビリテーション科 放射線科 胃腸科 リウマチ科
職員数	91名
・ 医師	3名
・ 看護職員	40名
・ 専門職	35名
・ 事務職員	13名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 地域包括ケア病棟入院料3
療養病棟入院基本料1
地域包括ケア医療入院管理料1
平均在院日数 30~40日、 病床稼働率 97.0%
特徴 地域包括ケアを主軸とした病院 等

② 自施設の課題

急性期とのつながりだけでなく、クリニックや施設との連携を強化

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①~②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・地域に根差した病院として、急性期からの受入だけでなく、クリニックや施設からの受入を強化していく。
- ・元の場所に元気になって戻る。

③ 今後持つべき病床機能

- ・地域包括ケア病棟を主軸とした病床機能

④ その他見直すべき点

- ・訪問診療や訪問看護、訪問リハなど、外向けの医療・介護活動に関して強化し、多くの需要に対して活動したい。
- ・医療以外とのつながりを深める（地域や社会との連携）

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	42		78
慢性期	36		
休棟等			
(合計)	78		78
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
31	新築移転予定	平成31年度内

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

下松中央病院 医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人緑山会 下松中央病院
開設主体	医療法人緑山会
所在地	下松市古川町3丁目1番1号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	99床 地域包括ケア病棟 28床 療養病床 71床 回復期 28床 療養病床 71床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	99床 地域包括ケア病棟 28床 療養病床 71床 回復期 28床 療養病床 71床
診療科目	一般内科、呼吸器内、循環器内科、整形外科、外科、婦人科 リハビリテーション科、歯科
職員数	
・ 医師	7
・ 看護職員	44
・ 専門職	30
・ 事務職員	12

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

- ・ 地域包括ケア病棟入院基本料 1
病床稼働率 88% 在宅復帰率 78%
 - ・ 療養病棟入院基本料 1 在宅復帰強化加算
病床稼働率 93%
- 特徴 4機能のうち慢性期が中心

② 自施設の課題

周南医療圏では、2025年の必要病床数の推計で、慢性期の病床が過剰となる予測となっているため、不足の予測が出ている回復期への転換を検討する必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

一定数の慢性期機能は必要であるため、慢性期機能を維持しつつ、必要に応じ回復期へ転換を図る。

② 今後持つべき病床機能

慢性期機能を一定数維持し、地域の状況により回復期や介護医療院への転換を検討する。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期	28		28
慢性期	71		71
休棟等			
(合計)	99		99
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

③ 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

④ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

地域医療介護総合確保基金の活用予定（回復期への転換）

【4. その他】（自由記載）

2021年度中に病院の建替えを終える予定。その際、グループ病院より病床の移動を検討している。
--

鼓ヶ浦こども医療福祉センター 医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	社会福祉法人 鼓ヶ浦整肢学園 鼓ヶ浦こども医療福祉センター
開設主体	社会福祉法人 鼓ヶ浦整肢学園
所在地	山口県周南市大字久米752番地4
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	100床 一般病床 55床、療養病床 45床 慢性期100床 (障害者施設等入院基本料(10対1)、療養病棟入院基本料(I))
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	100床 一般病床 55床、療養病床 45床 慢性期100床 (障害者施設等入院基本料(10対1)、療養病棟入院基本料(I))
診療科目	小児科、小児神経内科、整形外科、耳鼻咽喉科、神経内科、小児脳神経外科、歯科
職員数	118名
・ 医師	9名
・ 看護職員	52名
・ 専門職	49名
・ 事務職員	8名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

- ・届出入院基本料…障害者施設等入院基本料（10対1）55床、療養病棟入院基本料（I）45床
- ・平均在院日数…400.9日
- ・病床稼働率…83.5%
- ・児童福祉法及び障害者総合支援法による医療型障害児入所施設や療養介護事業所の機能も併せ持っている。

② 自施設の課題

- ・看護・介護職員の不足
- ・敷地の狭隘化、施設の老朽化

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・山口県内におけるNICUの後方機関（入院・ショートステイ・在宅訪問等）としての体制維持と充実に努める。
- ・在宅と入所の区別なく、障害児者のライフステージ全般にわたる支援を行う。
- ・山口県には、障害児に対する公的な療育機関がない。その代替としての役割を担う。

② 今後持つべき病床機能

- ・上記①の体制を充実させるためにも、療養病床を一般病床（障害者施設等入院病床）に転換する。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	100		100
休棟等			
(合計)	100		100
介護保険施設へ移行予定	—		—
うち、介護医療院	—		—

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2019	療養病床45床を一般病床（障害者施設等入院病床）に転換	NICUの後方機関としての機能充実 山口県には、障害児に対する公的な療育機関がない。その代替としての役割を担う

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

湯野温泉病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人治徳会 湯野温泉病院
開設主体	医療法人治徳会
所在地	周南市湯野4217-2
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	161床 療養病床 161床 慢性期 161床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	161床 療養病床 161床 慢性期 161床
診療科目	内科、リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	146.5名 5.5名、 「常勤5 非常勤0.5」 46名 85名 11名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出病棟入院基本料 平成30年度 療養病棟入院料「2」
平均在院日数 「169.5日」 病床稼働率 「98.2%」

特徴

- ・慢性疾患を中心に治療を行い、専門的治療が必要な場合は他の医療機関と連携を取りながら適切な医療を行っている。
- ・天然の源泉を利用した温泉療法とリハビリテーションを積極的に推進。
- ・特に機能低下の予防を重点に、PT・OT・STを配置。

② 自施設の課題～

- ① 医事従業員の確保、機能の維持強化を再検討。
- ② 慢性期患者の在宅復帰に向けて、療養環境整備、機能回復の促進。
- ③ 本人その家族に対し、終末期における医療及びケアの支援体制の確立。
- ④ 地域包括ケアシステム構築のため、地域連携と情報の共有化。
- ⑤ 地域住民に対し、医療・福祉・在宅支援の情報提供の推進。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

慢性期療養病床161床、周南市西部の自然環境のなか、患者さんに寄り添い、最新の医療施設を整備、温泉療法も完備し慢性期療養病床病院としての役割を堅持する。

関連施設として、老人保健施設温泉の里55床（2階一般病棟38床、3階認知症専門棟17床）を有し、利用者に病院と在宅のパイプ役として、在宅復帰の生活リハビリや個々の状態に応じたチームケア等を行っていく。通所リハビリ・訪問リハビリ・ショートステイを併設し在宅ケアを推進、地域に貢献していく。

又、同敷地内において、サービス付き高齢者向け住宅湯野温泉32室を有し、高齢者に安定した生活の砦を提供し地域社会に貢献している。同施設には、デイサービス、訪問介護、及び居宅介護支援センターを開設し、利用者も多く重要な役割を担っている。

西部地区において、医療病棟、介護施設、高齢者住宅、居宅介護支援があり、利用者の尊厳を長期に保障し、状態に応じた自立支援を常に念頭に置いた長期療養・生活施設であり、又在宅療養を支援、地域に貢献し地域に開かれた交流施設として、地域包括ケアシステムの深化・推進に資する社会資源とみなしている。

今後も地域に寄り添い、地域に信頼される医療圏として役割を構築する。

今後持つべき病床機能

当院は、慢性期療養病床「161床」を地域において維持堅持してまいります。

住まいと生活を支える医療・福祉ゾーンを創設し今日に至る。

住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される、地域包括ケアシステムの機構を実現するため、地域の医療施設や福祉施設と連携をとりながら、慢性期療養病床としての機能を担っていく。

圏域としては、周南地区、防府地区、山口地区に多くの医療需要者があり、治療・介護・在宅ケアを今後も推進する。

尚、今後地域医療構想に置いて、医療需要と医療政策の方向性の確定に応じ、病床の適正化の為に努力を行う。

その他見直すべき点

- ・ 医療療養環境の整備
- ・ 地域包括ケアシステム連携及び電子システム稼働
- ・ 急性期・回復期医療圏との、迅速な情報共有システムの構築

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	161		161
休棟等			
(合計)	161		161
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

鹿野博愛病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 緑山会 鹿野博愛病院
開設主体	医療法人 緑山会
所在地	周南市大字鹿野下 1 1 6 1 - 1
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	7 4 床 療養病床 7 4 床 慢性期 7 4 床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	7 4 床 療養病床 7 4 床 慢性期 7 4 床
診療科目	外科、内科、胃腸科、整形外科、循環器科、小児科、 リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員 ・ 看護補助者 ・ その他	1 1 0 名 4 名 3 4 名 1 0 名 8 名 2 4 名 3 0 名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届け出入院基本料 療養病棟入院基本料
在宅復帰機能強化加算
医療区分2・3の割合 90%以上
平均在院日数 197日 病床稼働率 93.2%

② 自施設の課題

- ・地域に於いて、入院施設は当院しか存在せず、現状の体制を維持して行く必要がある。
しかし、人口減少が見込まれ、必要度に応じて病床数の削減の検討が必要である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・急性期医療が終了した後の受け皿としての役割の継続。
- ・生活の場としての施設の提供を検討。

② 今後持つべき病床機能

- ・地域に求められる療養病床の継続は必須であるが、人口減少もあり、病床利用率を見ながら、適正な規模を検討。
- ・療養病床を削減した後の、転換先の検討。

③ その他見直すべき点

- ・医療スタッフの高齢化があり、現在の医療体制の維持が危ぶまれる。
過渡期に備え、スタッフの獲得は、早急な課題である。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	74		38
休棟等			
(合計)	74		38
介護保険施設へ移行予定	—		36
うち、介護医療院	—		36

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

周南高原病院

医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人緑山会 周南高原病院
開設主体	医療法人緑山会
所在地	周南市大字須々万本郷 29 番地の 1
許可病床数	172 床
(病床の種別)	医療療養病床 115 床 介護療養病床 57 床
(病床機能別)	慢性期 172 床
稼働病床数	172 床
(病床の種別)	医療療養病床 115 床 介護療養病床 57 床
(病床機能別)	慢性期 172 床
診療科目	内科、循環器科、胃腸科、整形外科、小児科、リハビリテーション科
職員数	163 名
・ 医師	5 名
・ 看護職員	52 名
・ 専門職	12 名
・ 事務職員	9 名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

療養病棟入院基本料1 認知症ケア加算2 入退院支援加算2 運動器リハビリテーション料（Ⅱ）

脳血管リハビリテーション料（Ⅱ） 在宅療養支援病院 在宅時医学総合管理料及び特定施設入居

等医学総合管理料 在宅復帰機能強化加算

平均在院日数320.5日 稼働率96.2%

② 自施設の課題

- ・ 介護療養病床の転換（介護医療院への転換時期）
- ・ 医師の高齢化
- ・ 看護師・看護補助者の確保

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 法人として、周南市北部地区の医療・福祉・介護を提供する
- ・ 急性期、回復期を経過した患者の受入れ

特に介護病棟は周南地区に当院しかない。介護度が高いが、医療的にはあまり治療の必要がない患者を受入れない状況が続いている。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 介護医療院への転換と維持
- ・ 医療療養病棟の継続

③ その他見直すべき点

- ・ 病院として見直すことは特にない。見直すべきは現状の医療保険制度、介護保険制度である。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	172		115
休棟等			
(合計)	172		115
介護保険施設へ移行予定	—		57
うち、介護医療院	—		57

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

周南病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人仁徳会 周南病院
開設主体	医療法人仁徳会
所在地	山口県周南市御幸通 2-8
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	56床 療養指導 56床 回復期 床 慢性期 56床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	56床 療養指導 56床 回復期 床 慢性期 56床
診療科目	内科、脳神経内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科 リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	76名 (59.4) 12名 (3.1) 42名 (37.2) 11名 (8.6) 11名 (10.5)

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 療養病棟入院基本料1、地域包括ケア病棟入院料1

平均在院日数 110.7日

病床稼働率 87.5%

② 自施設の課題

○地域における療養病床の数が、将来過剰となる見込みのため、今後病床機能の転換を検討する必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

○周南病院で展開している在宅医療（訪問診療、訪問看護）を基軸にした施設等との連携を強化し、利用者の重症化を防ぐこと、急変時の自病院への入院受入のしくみを作ることで地域における当院としての役割を発揮する。

② 今後持つべき病床機能

○地域包括ケア病床等の回復期機能を提供する病棟の整備について検討する。

③ その他見直すべき点

○外来受診者数が伸び悩んでおり、外来の診療時間の見直し等、外来のあり方について検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			36
慢性期	56		20
休棟等			
(合計)	56		56
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2020	療養病床16床を地域包括ケア病床に転換	地域で不足する回復期機能を充足 地域で過剰な慢性期病床の削減

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療提供に関する項目（病床稼働率、病床回転率） ・ 経営に関する項目（人件費率等）
--

【4. その他】（自由記載）

--

下松病院

医療機関2025プラン

平成30年10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 成幸会 下松病院
開設主体	医療法人 成幸会
所在地	下松市新川二丁目1番1号
許可病床数	51床
(病床の種別)	療養病床 51床
(病床機能別)	慢性期 51床
稼働病床数	51床
(病床の種別)	療養病床 51床
(病床機能別)	慢性期 51床
診療科目	内科、リハビリテーション科
職員数	49名
・ 医師	7名
・ 看護職員	19名
・ 専門職	20名
・ 事務職員	3名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 療養病棟入院料 2

平均在院日数 340日、病床稼働率 92.0%

特徴 慢性期のみ

② 自施設の課題

当院は、古くから慢性期医療を担う病院として運営してきました。

今後も慢性期（療養病床）としての役割を担っていきたいと思っております。

ただ、近隣ないし圏域の療養病床の数（おそらく減少すると思われる。）の推移により検討する必要があります。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

当院は、1病棟のみの小病院であるので当院のみで複数の機能を持った病院として運営することは不可能である。

慢性期病床のみとなる。

② 今後持つべき病床機能

・基本的には慢性期病床

そのうち一部を回復期機能を持つものとするか

ただ、近隣病院でその機能が充分あるのであれば、その必要性はないかもしれない。

③ その他見直すべき点

今後の国の方針次第にならざるを得ない部分がある。

診療報酬・介護報酬の設定での誘導がある場合、介護保険施設への転換なども考えられる。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	5 1		5 1
休棟等			
(合計)	5 1		5 1
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--